

全国の
水産業関係者350人に
聞きました!

Withコロナに向けて!

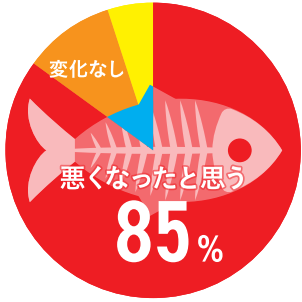
新型コロナウイルス感染症拡大で何が変わったの? (2020年5月29日から7月8日までの回答を分析)

1 回答者はどんな方々?

7月8日までの回答者数は350人。
(うち漁業・養殖業者が31%)

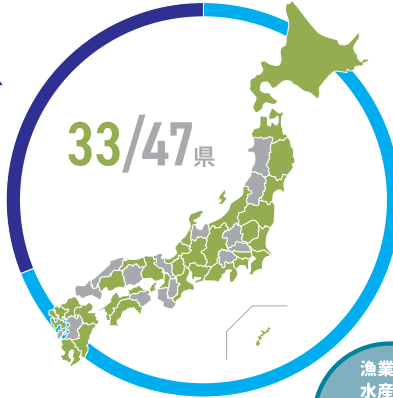
コロナによって漁業・水産業は…
良くなったと思う

コロナによって漁業・水産業は…
良くなったと思う

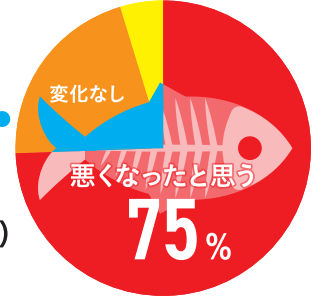


漁業・養殖業
従事者
31% (108人)
平均年齢
46.3才

総回答者数 350人
平均年齢 47.4才



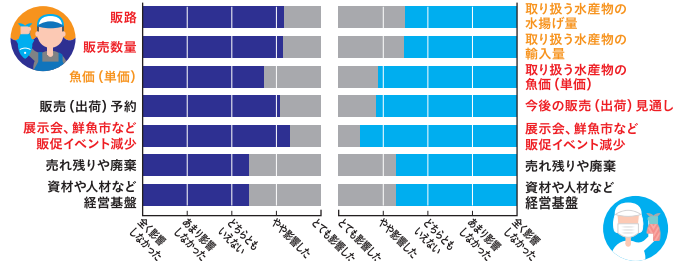
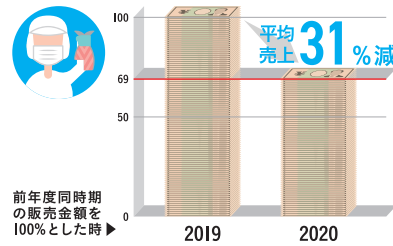
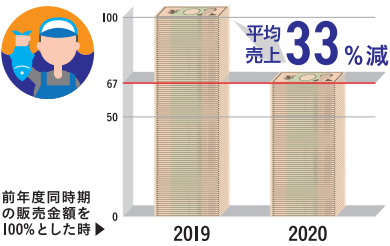
水産関連
事業者 (水産加工、流通、
小売、外食 など)
69% (242人)
平均年齢
47.9才



2 前年度と比べて 販売金額の変化は?

全体でおよそ前年比マイナス30%の販売金額変化があった!

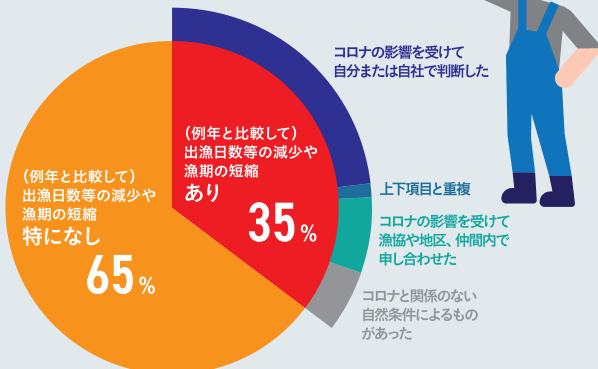
漁業・養殖業では、魚価よりも『販路・販売数量・イベント中止』の影響が強い。
水産関連事業者では、水揚げ量や輸入量よりも『魚価・販売見通し・イベント中止』
の影響が強い。
→つまり、魚がとれるかどうかよりも、流通・加工・販売などの
サプライチェーンの目詰まりの影響が大きかった!



漁業・養殖業者さんに聞きました!

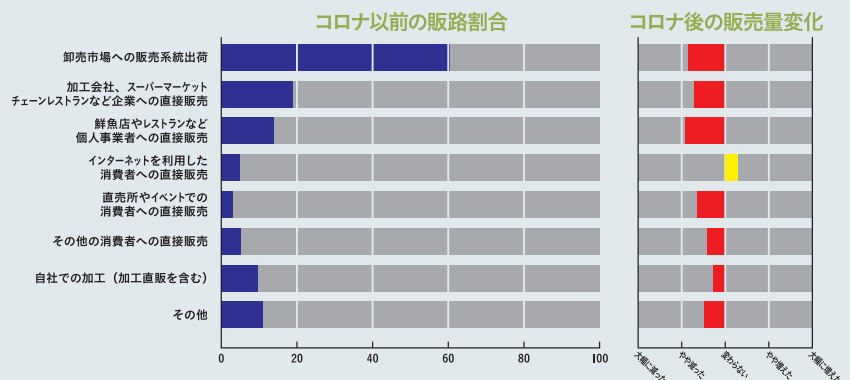
4 コロナ後、出漁日数等は 減少した?

35%の生産者が漁期短縮をおこない、
その大半がコロナによる個人や地域の
自主的判断によるものだった。

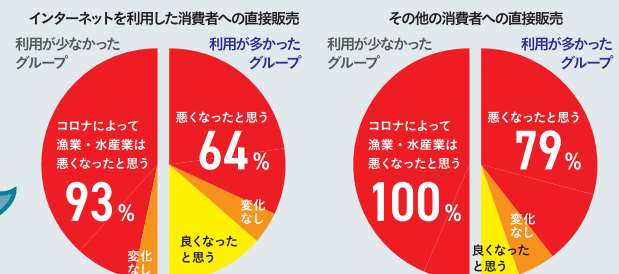


5 コロナ後、販路にどんな変化があった?

平常時は平均60%以上が卸売市場への販売出荷。コロナ後には
唯一「インターネットを利用した消費者への直接販売」が増えた。



さらに、コロナ以前から消費者への直接販売を利用する回答者の
コロナ影響を比べてみると…



コロナ以前から消費者への直接販売(オンライン・オフラインとも)を利用していた
回答者では、「コロナによって漁業・水産業が悪くなった」と答える人が少ない傾向
が認められた。
→つまり、多様な販路を持っていると影響を受けにくい可能性
が示唆された!

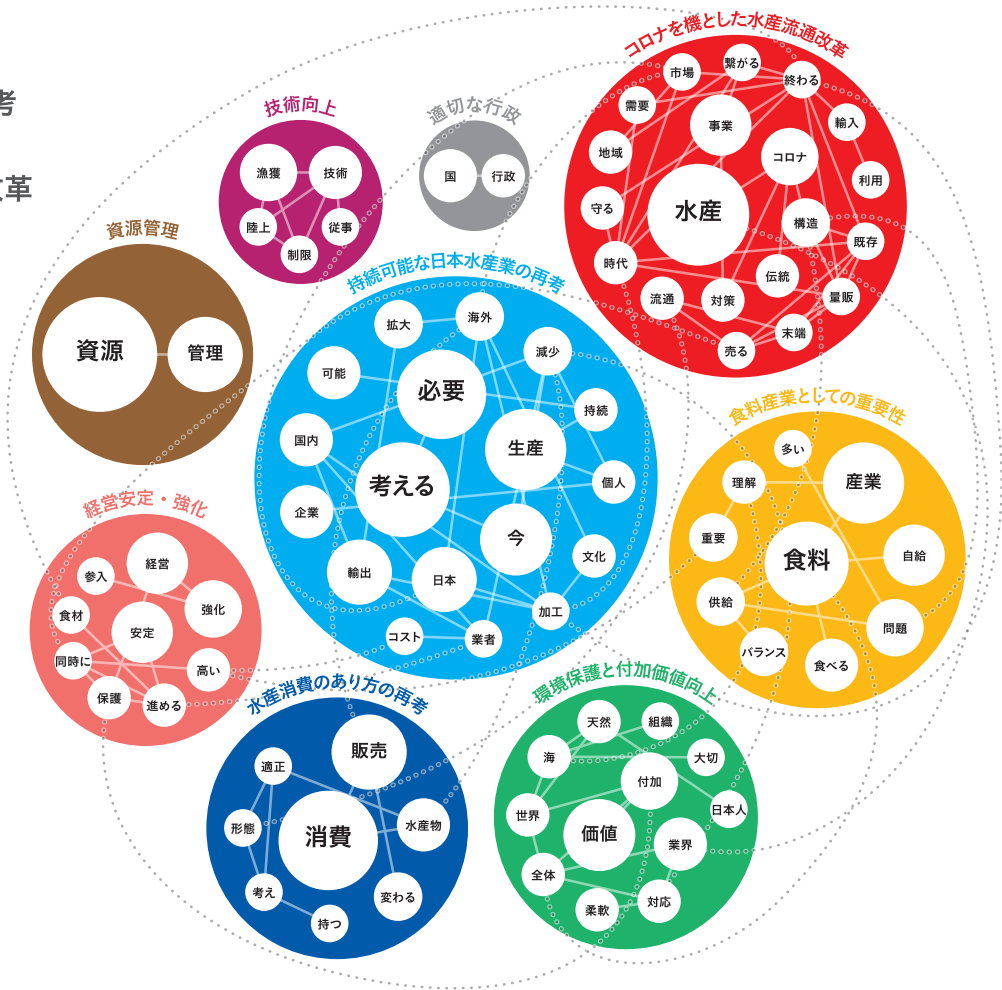
6 日本の漁業・水産業は、どう変わるべきだと思う？



(自由に記述いただいたご意見の言葉のつながりを分析しました)

「コロナを機とした水産流通改革」「持続可能な日本水産業の再考」「水産消費のあり方の再考」など、コロナ禍で苦しい中でも、これを機に産業をより良くしていこうという思いが表出された

- 抽出された方向性の分類
- 持続可能な日本水産業の再考
- コロナを機とした水産流通改革
- 食料産業としての重要性
- 環境保護と付加価値向上
- 水産消費のあり方の再考
- 経営安定・強化
- 資源管理
- 技術向上
- 適切な行政



- 🐟 調査結果から、新しい生活様式に対応したサプライチェーンの構築が、日本水産業の再興につながる可能性が示唆されました。
- 🐟 研究グループは、持続可能な水産業振興の観点から、今後も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響について分析を続けていきます。
- 🐟 なお、本調査は、地球研・水産研究・教育機構、東京大学等に所属する全国の水産研究者・実務者有志により結成された「新型コロナウイルスの水産業・地域影響研究グループ」により実施されました。

新しい生活様式への適応は、持続可能な水産業の再考にもつながる。
 コロナ禍の今、消費者の皆さんも「日本の水産業のあり方」について、一緒に考えてみませんか？



オンラインアンケートは現在も回答を募集しております。
 水産業関係者の方々は、ぜひご回答をお願い致します。
https://jp.surveymonkey.com/r/covid_fishery
 新型コロナウイルスの水産業・地域影響研究グループ